

活気溢れる当時の大阪を振り返る 花の万博20周年記念イベント



球根育成用に廃棄されるチューリップの花で作られた
フラワーカーペット(鶴見緑地公園)



「花の万博」コンパニオンのユニフォームを展示
(メモリアル展示／鶴見緑地公園)

アジア初の『国際花と緑の博覧会(1990年4～10月)』が開催されて20年を迎えた今年、財団法人国際花と緑の博覧会記念協会は、ゴールデンウィークを中心に多彩な記念イベントを開催しました。

オープニングとなった『花の万博20周年記念式典(4月30日／いづみホール)』では、同協会の佐藤茂雄副会長が「花の万博は“自然と人間との共生”という理念を初めて掲げ、人類が地球市民の一員であることを広く世界の人々に訴えかける絶好の機会となった。今後も次世代への理念継承を目指した取り組みを進めていきたい」と挨拶。一般・招待者650人の来場者に、バイオリニストの奥村愛さんらによる記念コンサートや、花博開催時の映像や花博協会20年の歩みが紹介されました。また、かつての花博会場の鶴見緑地公園では、『花・緑フェスタ』として、チューリップ33万本の花びらで描かれた“フラワーカーペット”や、花博開催時の様子を伝えるメモリアル展示、水の館ホールでの各種団体展示などが行われました。

一方、今年は大阪万博(1970年3～9月)が開催されて40周年を迎え、唯一現存する『鉄鋼館』が、大阪万博の記念館『EXPO'70パピリオン』としてリニューアルされました。大阪万博はアジア・日本初の国際博覧会で、入場者は約6,220万人と万博史上最多。花の万博は日本で4回目の国際博覧会で、当時史上最多の国・国際機関が参加し、入場者は2,300万人と、いずれも大成功を収めています。



花の万博20周年記念式典で
挨拶する佐藤茂雄氏

約200人が狂言と文楽を堪能 関西経済連合会「伝統芸能教室」



関西経済連合会は、関西発祥の伝統三芸能(能楽・文楽・歌舞伎)の普及支援と国内外への情報発信の強化をめざす事業に取り組んでいます。今年3月29日には、ABCホール(ほたるまち)で、約200名の参加による伝統芸能教室『伝統芸能へのいざない』を開催。和泉流狂言師の小笠原匡さんや文楽三味線鶴沢清丈さん、人形遣いの吉田玉翔さんらを迎え、狂言と文楽の知識や演技方法などが解説されました。また、狂言と文楽をコラボレートした話題作『狂言文楽浪花話』も上演。関経連では、この他にも企業人向けの伝統三芸能入門連続講座の開催や学校向け入門ビデオの活用などにも取り組んでいます。